

# 3つの博士課程教育リーディングプログラムを運用



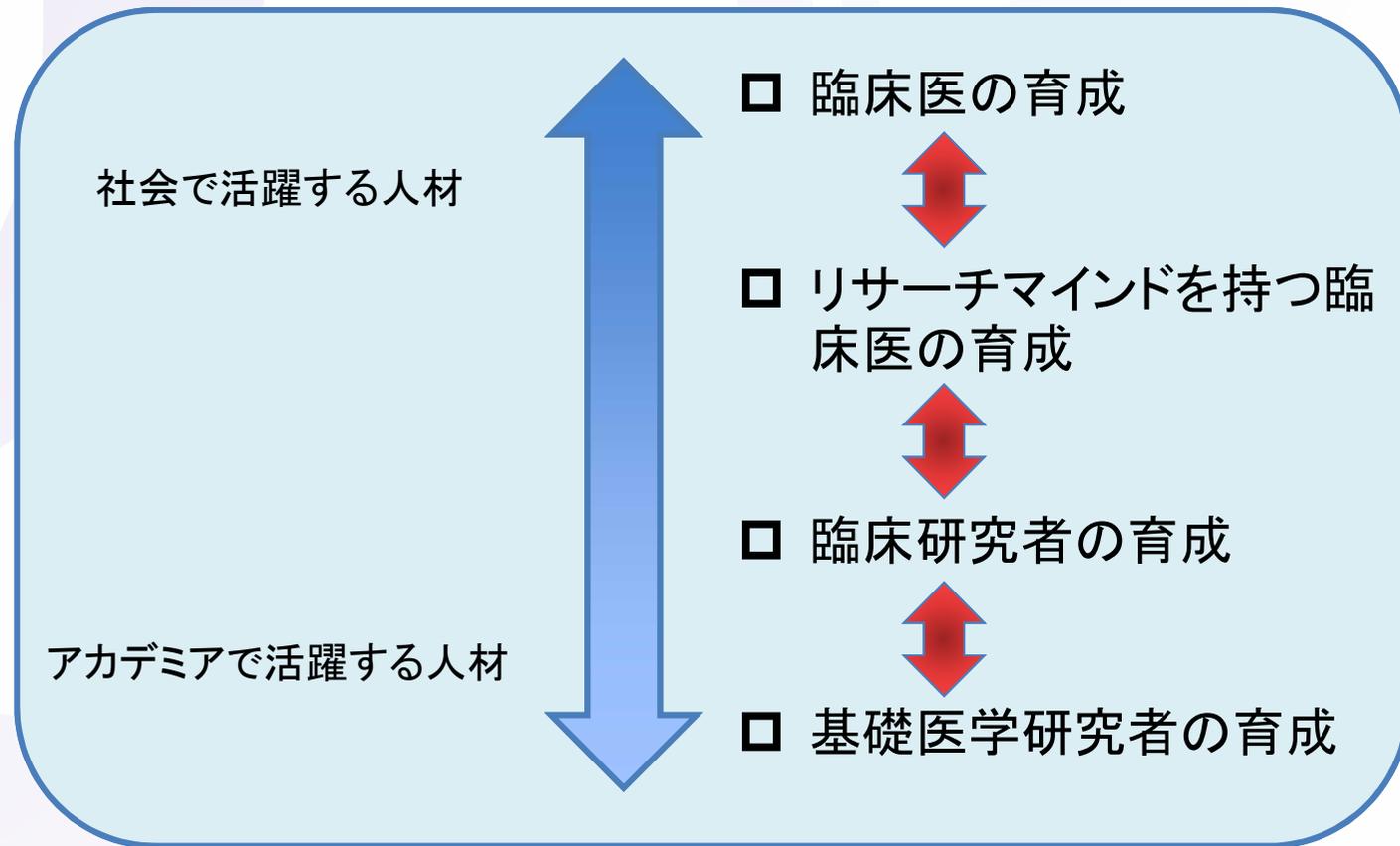
PhD プロフェッショナル登龍門



実世界データ循環学リーダー  
人材養成プログラム



「ウェルビーイング in アジア」  
実現のための女性リーダー  
育成プログラム



## 【博士課程教育リーディングプログラムの目的】by JSPS

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業である。

**Q1** なぜ早く研究を開始する必要があるのですか？

**A** 将来にわたり世界の医学生物学研究を牽引する皆さんにとって、医学部卒業直後の端々しい感性と能力を有する時期に、医学生物学研究の膨大な知識と技術の修得に専念できる時間を持つことが重要です。研究者として刷り込み(インプリンティング)することは想像する以上に重要です。早期に研究を開始することにより早期に独立した研究者になり、活力溢れる若い時期から世界を主導する研究を行うことができます。

**Q4** 臨床研修期間中に研究できますか？

**A** 研修期間中は研修に専念できるようにしてあります。しかし、自ら時間をみつけて研究を行うことを妨げるものではありません。

**Q7** 大学院時代の生活の不安があります。

**A** 25-30万円/月×5名/年の奨学金コースにMD・PhDコース学生を優先的に採用します。Plan Aの学生を優先します。研修を終えていけば大学院期間中に医師としてのアルバイトも可能です。

**Q10** 博士課程大学院プレプログラムに入るためには？

**A** 基礎医学セミナー指導教授の推薦状により受講開始を審査します。毎年4月に申請を受け付けます。原則として医学部4年生4月に受講申請をしてください。格別の理由がある場合には、医学部卒業前まで受講申請を受け付けます。平成29年度までの特例に関してはQ21を参照してください。

**Q13** 博士課程大学院に入学するためには？

**A** 博士課程大学院の入学試験を毎年8月と1月に行います。入学願書を提出して下さい。名古屋大学出身のMD・PhDコースの学生は、英語・共通問題・専門問題の筆記試験の代わりに面接を行います。

**Q16** 医学部生時代、または、臨床研修期間に発表した論文も学位論文になりますか？

**A** 大学院入学前の第1著者原著論文を大学院短期修了のための2報目の論文として考慮しますが、唯一の学位論文にすることはできません。博士課程在学中に第1著者原著論文を発表する必要があります。ただし、医学部入学前の第1著者原著論文を大学院短期修了のための2報目の論文にすることはできません。

**Q19** 名古屋大学以外を卒業してもMD・PhDコースに入ることができますか？

**A** できます。医学部卒業前までにプレプログラム受講申請をしてください。原則として学部生時代の指導教員の推薦状を添付してください。研究成果のプレゼンテーションとヒアリングを行い、プレプログラムの受講開始審査と修了審査を同時に行います。大学院入学前の第1著者論文はQ16と同様に扱います。

**Q2** どのようなキャリアパスがありますか？

**A** 特段の研究業績をあげ、基礎・統合医学領域研究室で研究を続ける場合には、名古屋大学の特任助教のポジションを1学年1名に優先的に配置します。早期に学位を取得し独立した研究者を目指すことにより同世代の研究者に比べて優位になります。しかし、必ずしも基礎医学研究者を目指す必要はありません。研究マインドを持った臨床医になることも政治・行政分野や創業企業などで活躍することも推奨します。

**Q5** 臨床研修病院はどここの病院でもよいのですか？

**A** どここの病院でも構いません。ただし、Plan Bの場合、名古屋大学医学部附属病院で研修をする場合のみ、1年間を社会人大学院生として大学院に在籍することができます。

**Q8** 大学院を卒業後、臨床医を目指す場合に専門医になれますか？

**A** 可能です。臨床医を目指す場合には、専門医資格を是非取得して下さい。希望をする臨床科を想定している場合には、適宜、臨床科の教員に相談をしてください。

**Q11** 博士課程大学院プレプログラムに入る時にPlans A-Bを決めるのですか？

**A** Plans A-Bを決める必要はありません。Plan Aを希望する場合には医学部5年生(6年生も可)から博士課程大学院に入学して下さい。プレプログラムを受講することなくPlan Aを開始することも可能です。

**Q14** MD・PhDコースの定員はありますか？

**A** ありません。医学系研究科博士課程の入学定員161名の中で採用をします。

**Q17** 博士課程大学院プレプログラムを途中で辞めてよいですか？

**A** 構いません。プレプログラムを中退しても将来の大学院学位審査時に不利になることはありません。医学部生時代に研究者を志したことを将来に誇りにして下さい。

**Q20** 2年間の臨床研修期間よりも長く後期臨床研修を行った後で博士課程大学院に入学し、MD・PhDコースを継続することができますか？

**A** できません。MD・PhDコースではなく通常の博士課程大学院生として入学して下さい。

**Q3** 名古屋大学附属病院で研修をするメリットは？

**A** 名古屋大学医学部附属病院は基幹病院として多彩な能力を持つ多種多様なスタッフにより最先端医療を行っており、最先端医療を体験できます。さらに診療・研究・教育のすべてにおいてトップを目指す教員の指導を優先的に受けることができます。ローテーション研修を通じて、研究の人脉を形成することができます。

**Q6** 臨床研修をいつやるのですか？

**A** いつでも構いません。名古屋大学医学部附属病院で研修をする場合には、2年間の臨床研修を2回に分けることも可能です。臨床研修を行わないで基礎研究者になることも可能です。

**Q9** 博士課程大学院プレプログラムでは何をやるのですか？

**A** 研究に加えて、大学院特論講義・大学院実習(ベーシックトレーニング)・特徴あるプログラムなど大学院必須単位を予め聴講することができます。

**Q12** 博士課程大学院プレプログラムを修了するためには？

**A** Plan Aの学生は修了認定を免除します。Plan Bの学生は医学部6年生の9月に研究成果のプレゼンテーションを行いMD・PhDコース継続の可否を評価します。6年生9月以降にプレプログラム受講を開始する場合には、プレプログラムの受講開始審査と修了審査を同時に行います。

**Q15** 博士課程を3年間で卒業する場合と4年間で卒業をする場合の違いは？

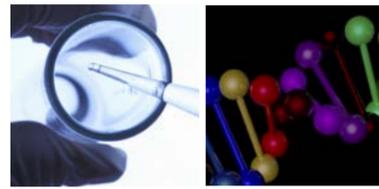
**A** 大学院運営委員会が認める「研究領域におけるトップレベル雑誌」に第1著者として原著論文1報を発表することにより3年間で短縮終了できます。または、第1著者として原著論文2報を発表することにより3年間で短縮終了できます。

**Q18** Plan Aで博士課程に4年間在籍できますか？

**A** Plan Aは3年間短縮終了できるように指導しますが、4年間在籍することもできます。博士課程大学院を3年間で休学し、医学部卒業後もしくは研修終了後に博士課程大学院に復学し、学位論文の研究を続けることもできます。但し休学期間は最長4年間です。

**Q21** 医学部卒業後にこのプログラムに入ることは可能ですか？

**A** 平成29年度末までは、博士課程入学前までに本プログラムの履修を開始することを特例として認めます。出身大学は不問です。随時プレプログラム受講申請を提出して下さい。



名古屋大学大学院医学系研究科博士課程

MD・PhDコース

医学研究の最先端で活躍する若手研究者を養成

名古屋大学大学院医学系研究科博士課程「MD・PhDコース」とはMDとPhDの両学位を同時に取得する米国ではトップの約5%の学生だけが入学できる医学研究エリート育成プログラムに相当するコースです。

## MD・PhDコースの特徴

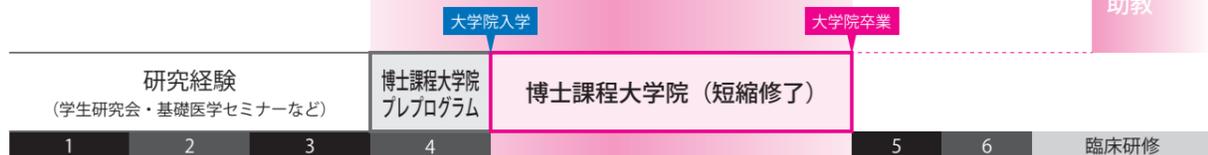
- 医学部4年生夏に大学院プレプログラム受講開始（プレプログラムは博士課程準備期間で正規の博士課程ではありません）
- 平成29年度末までは医学部5年生以上も開始可能
- 医学部時代に大学院必修単位取得科目の聴講可能
- 医学部4年終了後から臨床初期研修修了までの4年間のいずれかのタイミングで基礎領域・統合医薬学領域の大学院に入学
- ペーパーテストに変えて面接による大学院入試
- 名大附属病院で研修をする場合には臨床研修医2年目で社会人として大学院入学可能
- 医学部時代の第1著者論文を大学院短期修了のための2報目の論文として考慮
- 大学院在籍中に月25-30万円の奨学金を1学年5名に優先支給
- 大学院卒業後、特任助教へのキャリアパス（最大1学年1名）

## MD・PhDコースの紹介



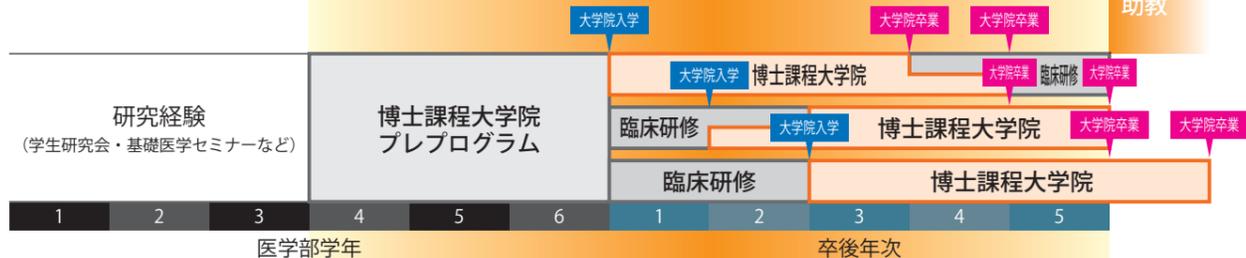
医学科4年（5年も可）を終えて基礎・統合医薬学領域の博士課程大学院（短期修了による3年間）に入るコースです。

### 博士課程大学院プレプログラム + 博士課程大学院



医学部医学科4年生から卒業後5年間の期間に、臨床研修と博士課程大学院を終えるコースです。名古屋大学附属病院で研修をする場合には、1年間を社会人大学院生として臨床研修を行うこともできます。基礎・統合医薬学領域を専攻してください。

### 博士課程大学院プレプログラム + 臨床研修 + 博士課程大学院



## 奨学金制度

1. 「基礎医学系研究者養成コース」は基礎医学領域あるいは統合医薬学領域を主専攻とする30歳以下のMDの大学院奨学金コースです。月30万円の奨学金が武田科学振興財団により賦与されます。2名定員です。
2. 「次世代医学研究者養成コース」は主専攻の制限がない30歳以下のMDの大学院奨学金コースです。大学院在籍中は研究に専念

- をすることを期待します。アルバイトは週1日のみに制限をします。月25万円の奨学金が医学系研究科独自予算から賦与されます。3名定員です。
- 3. 2つの奨学金コースを同時に選択できません。
- 4. MD・PhDコースの学生を両奨学金コースに優先的に採用します。両奨学金コースともPlan Aの学生をPlan Bの学生よりも優先します。

## コース在籍者からのメッセージ



医学部に入学したその先には、研究医としての未来と、地域医療に従事する臨床医としての未来があります。残念ながら、いまのところ、将来の選択として研究医を考える医学生は非常にマイナーですが、そんな中で、学生が研究をもっと身近に感じて親みを深めるために、学内では、さまざまな形のサポート策が講じられています。

MD・PhDコースは、この一環であり、研究医として生きるという選択について、若いうちに、より現実的に考える機会を与えてくれる制度だと思います。個人的には、人生の中の、自分のためだけにすべての時間とエネルギーを使えるという、貴重な時期に、大学院生活を送れることが、このコースの最大の意義であると感

MD・PhDコース（平成25年度入学）

岩井 美佳 さん

じています。私自身は、研究医を志して入学し、研究が大好きだからと、ごく自然にMD・PhDコースを選択しました。学部生時代は、講義が終われば実験という毎日でしたが、やはり学業が最優先ですので、100%研究に没頭というわけにはいかず、全力投球しているつもりでも、どこか物足りなさを感じていました。しかし、大学院生活はやはり違います。プロジェクトを主体的に進めていくという責務の重さは、正直なところ、たいへんなものですが、そのかわりに、日々得られる刺激の強さや結果を得たときのよこびの大きさは、これまでの人生で経験したことがないくらいのものでした。研究医への道は、常識や既存の概念にとらわれず、他にはない新しいものを創造する道だと思います。また、その道を選ぶことは、医学の新たな未来を切り開くことにつながるすばらしい選択です。みなさんも、そのような道を選ばれることを願っています。